

新・ユキちゃんフクちゃん

民俗村のマスコット、旧星川家で飼っているヤギ2匹。先代がいなくなっマから民俗村に来マ4年目になりましたが、すくすくとというよりかなり大きくなり、カモ強くなっマいたため、草を食べさせようと園内に連れ出そうにも、首につけた縄をグイグイ引くものですかから大変苦労しました。そこで、いつも病気の時に診マくれる動物病院の先生に相談したところ、ある日、大きなカゴを荷台に積んだ軽トラツクが村の正面入り口から入っマきました。軽トラから出マきたのは実家(元飼い主)のお母さん。「ずいぶん大きくなっマこと。これじゃあ大変なんだ。」と笑いながら「じゃあ降ろすか」と作業開始。荷台のカゴの中には小さなヤギが2匹。「今度ハコレを置いマくから」とカゴの中の小さなヤギの首にひもをかけマ降ろし始めました。あまりの突然の訪問で、ただただ言われるままに子ヤギを近くに括り付け「あれっ、マことは大きい方は」の問いに「うん、連れマ帰るよ」と。あれよあれよという間にユキちゃんフクちゃんを荷台のカゴに入れた。「じゃあね」と帰っマいきました。「????」。受け入れ準備もしマおらず、首輪もなかったの、とリあえず倉庫からロープを持つマキマ、さっきまド

♡ どうぞごひいきに ♡



デカイのがいた馬屋内に繋ぎました。慣れないところに置いてマかれ、隅っこマエメエと鳴いマいました。いつもお世話をしてマいたスタツフがお休みの日の出来事だっマので、とりあえず、ヤギが小さくなっマとメールを入れ、その日は乾草をやり、そのまま新居で過ごさせました。ユキちゃんフクちゃんには「さよなら」もせず、新しい子ヤギを迎え複雑な心境でしたが、翌日出社したスタツフは私以上に複雑だっマことでした。なんせいきなり小さくなっマいたので、後日、お休みの日にその実家を様子を見に訪ねたようすが、広めのところに十数頭放牧してマいた中マ、どれだか特定できなかつマたか。新しい子ヤギも2匹ともモス。そのまま襲名して「ユキちゃん、フクちゃん」としました。子ヤギのせいハ元気にピョンピョン跳ね回っマます。天気がいい日は外にいます。先代同様かわいがっマやつマください。

お菓子作り教室

初めマの企画、民俗村で日本の伝統和菓子づくり。初回は「水無月(みなづき)」を作りマす。6月の名前が付いたこの「水無月」は節分や土用の丑の日のように、決まっマた日に食べる習慣があります。水無月は三角の形をした和菓子です。ういろうに小豆をのせマ固めた、羊かんのような寒天のような霏田気。その由来は、旧暦の6月1日に氷を食べ、夏バテを予防するという風習から。氷を食べマ夏バテ予防を願うのは、元々室町時代の宮中で行われマいた暑氣払いでしたが、当時の庶民は高級品である氷を手することはできず、その代わりとしマ氷に似たお菓子を食べることで夏バテ予防をしたのが

和菓子

6月は水無月を食べましよう

お菓子作り教室

モリモシのういろうに大粒の小豆がおいしいよね

時間	6月	定員数	20名
10時~12時	29日 22日 15日	参加費(材料費込)	千五百円
全席	(木) 体験	(木) 厨房	

講師 オラド・ヤルーベ 代表 阿部 明

お客様と地域の伝統食を深く愛し、伝統食品の素晴らしさを普及させるお仕事夢と希望が持てる日本の食文化のお手伝い、ちたんこのお菓子教室

みちのく民俗村 MICHINOKU FOLK ORA VILLAGE TEL: 0197-72-5067 FAX: 0197-72-5074 Mail: michinoku.fv.entry@gmail.com

和菓子水無月の始まりだそう。三角形の形は氷のかけらや氷の角を表しマあり、小豆は邪氣払いや悪魔祓いという意味マのせられマいます。本物の氷が手に入らない庶民の知恵で、水無月を食べることにより暑い夏を乗り切ると言っマた由来があつたのですね。

講師は「オラド・ヤルーベ」代表の阿部明さん。伝統食品・日本の食文化の伝道師としマ、餅や団子のお菓子教室を主宰されマいます。6/15・22・29の3日間、時間は10時~12時で体験厨房で行います。参加費は1,500円(材料費込)です。お申し込みは電話かメールで。教室は続けマいく予定なので、以降もどうぞご期待下さい。



では平成29年に実行委

正式名称は「リレー・フォー・ライフ・ジャパンきたかみ」。その趣旨は「がん患者さんやそのご家族を支援し、地域全体でがんに向き合い、がん征圧を目指し、一年を通じて取り組むチャリティ活動」。世界的に行われま

員会が結成され、8月に第1回リレーウォークがここの民俗村で行われ、参加者は24時間園内をグルグルと歩きました。園路にはメッセージが書かれたルミナリエが園路に沿って約300個設置され、暗くなると中にはLEDライトが灯されるため幻想的。今年6月10日13時から20時まで、他にもいろいろ企画をご用意されています。夜の民俗村でも一緒にお過ごしください。

藍染め教室

昨年度から始まった藍染め教室。園内の畑に藍を植え、葉っぱを叩く「たたき染め」や発酵させマ染料にする「藍染め」。今年6/11(日)9時30分から北上市立博物館相原主任学芸員さんから昔からの藍の利用やその道具などに関するお話を聞き、その後、園内の畑に藍の苗を定植します。定員は20名で参加費無料。苗が大きくなったら7月からは染め方などの教室を開催予定です。

日にち(予定)	畑の作業他	ワークシヨップ
6/11(日)	苗を畑へ定植する	カルチャートーク
7/30(土)	沈殿藍を作る① 乾燥葉を作る	葉っぱをたたいて染めよう
8/5(土)	沈殿藍を作る②(攪拌)	和紙を染めよう
8/22(火)	沈殿藍を作る①(仕込み)樽	生の葉で染めよう
初旬	沈殿藍を作る②(攪拌)	
10/8(日)	藍の花の鑑賞	ドロドロ藍で染めよう
11/5(日)	刈り取り 種の収穫	乾燥葉で染めよう

端午の節句

今年の旧暦5月5日は6月22日です。前週の18日(日)に端午の節句を行います。例年同様民家の軒先に「シヨウブとヨモギ」を差し込み、無病息災を願います。昨年はウオークラリー形式で



ウブとヨモギを差し込み、無病息災を願います。昨年はウオークラリー形式で



5月28日。小雨がぱらつく中、約40名の方々の参加をえりま田植えを行いました。周りのベテランのかつちや達の心配をよそに、毎年参加している子供たちは手際よく

兜を作ったり弓矢を作ったり。今年少し趣も変えまみようかと思案中。もちろんお帰りの際には菖蒲を差し上げますのでお風呂をシヨウブ湯にして病気を退散と香りを楽しんで下さい。お申し込みは不要です



く、慣れた手つきでせっせと苗を植えていきました。次回は6月25日草取りです。作業の後には環境アドバイザー佐井守さんをお招きし、園内の池や田んぼにすむ水生生物の調査を行います。先生は甲虫類が大得意。昨年モカブトムシやクワガタの標本も持って来られました。お楽しみに!



フレッシュ村娘!!

昨年12月からのアルバイトを経、新人スタッフになりました。御年23才の村娘です。伊東美波(いとうみなみ)です。今まで57才の私が最年少の民俗村に、平均年齢をぐぐっと下げる(実際には焼け石に水でしたが)若いスタッフです。前職は保育士ということですがイベントの仕切りからヤギの世話、PC操作しらの事務までオールマイティなテキパキと仕事をこなしていきます。園内で見かけたら優しく声をかけてくださいね!

